

昨年の浜松と宮島のリーダース合宿に引き続き、今年も3月には全国各地で合宿が開かれます。今年
は、北海道、東北関東合同、中部

表面に表われた大きな相違点となつています。このことは単に、数量的に開催地を増やしたり、合宿の名称を「リーダーズ合宿」から「合宿」にしたわけだけでなく、少な

一人一人の、サークルの問題を、全体的な場にすえ
総体的視点に立って問題をとらえ、位置づけよう!!

関西、四国九州中国合同大会と全国ウカ所でリーダース合宿ではなく、金サークルを対象とする合宿が行なわれます。昨年と較べ、今年の合宿は全国的に行なわれるようになったこと、対象がリーダースからサークル員に変わっている点が

ていいのです。従って、この様な観点から行なわれる倉宿においては、場所を特に限定する必要もななく出来るだけ多くの場所で出来るだけ多くの人が、現在の問題を展開していくために参加すればよいのです。

下関合宿・中国・四国・九州

中國・四國・九州
合同

中部合宿
山一七二水宝館
三月二十三日、二

三月十二日

十六日(予定)
・長野県大糸南線延

福島合宿・関東・東北合同

十七日

三月十八日
二十一日

・京都
北海道合宿・三月二十九日～四

(一つの例)

	8:00	12:00	18:00	24:00
一日目		集合	個人個人で写真と取り組む。 パート別	
二日目	2パート合同で討論問題を明らかにしていく フィードバック班		4パート合同	
三日目	→ → 全体で行う フィードバック班からの問題提起			
四日目	新入生対策サークルの話		解散	

とをやめてしまうことになるの
す。ですからわからない写真は
かるまで追求しなければならな
のです。このように一枚一枚の

内容とみることはできないでしよう。すなわち写真をみるということとは既成の写真概念を応用する事ではなく、自分自身を変え得る

新人生对策

新人生指導は、歡迎コンパから既成の写真理論の伝授まで、いろいろな形で各サークルではおこなわれているが上級生から新人生に対しての下降的な指導關係で、共に考え、創造して行く視点が欠落している。それ故にも一度サークルでの新人生指導の持つ意味を考え直してみる必要が大いにある。何故なら新人生指導のやり方一つでそのサークルの今後四年間の方向が決ってしまう様な大きな意味をもっているからです。

これから
新入生指導の
意味するもの

では一体、新入生指導とは何たるのか？少なくとも写真の知識、サークル活動の知識を教えるだけのものではないでしょう。何故ならサークルは、多くの知識を獲得するだけの場ではなく、皆で考え意味あることを創造していく場で

とを他のサークル員との有機的な結びりの中で実践していくことが出来るようになるための活動だと思ひます。まさに「級生と新入生」とが一緒に自分達の問題（例えばサークルで何をしたいか）を「自分は何をしたらよいか」を考えることをしない限り、新入生指導は意味ないのです。即ち、新入生が写真やサークル活動をこの現実の中で生きていくことの問題として主体的に受け止めることが出来るようになるには、我々の既成の理論を与えることではなく、我々が新入生と共に新たな理論を作り上げようとしたことにおいてなされるのです。従つて新入生指導は、上述の様な視点において行わなければならないのです。そうでない限り、それは新入生にとつても我々にとつても意味がなく、そこにいる人間をますます形骸化するばかりです。では、新入生が自覚

きらかにしていくものと考えるようになってくには、実際如何なるサークル活動を行なつていったらよいのか具体的に考えてみたいと思ひます。

指導員の重要性

4月以前の問題

2月から3月は、学年末試験が終り、時間的に余裕があるので、この一年間の活動を通じて各自が、不足していると感じた面を補ひ、各サークル員が自分の視点を確立して行かなければならない、従つて新入生を迎える四月までに、われわれが最低限やらなければならないことは、歴史的視点にたつて写真の意味を考え、いゝことである。もっと具体的にいへば、全日テキスト「歴史は何を教えるか」で語られているナターラ・アジエ、ウエストン……等は、このよう

(3面につづく)

個別的な存在体にもとめることなく、被写体对自己的關係が現実對自己、世界对自己を意味する対象において求めなければならない。

「行為」でなければならぬといふことができるといふことです。従つてわれわれが写真を見る時には、常に自分自身の生き方が問題にされるのである。それ故写真を見ることには、一定の方法を存せず、この現実の中で生きることすなわちわれわれが自分自身に對してあるところの存在として生きることを指向していく中でみていかなければならぬのです。それ故写真は常に自分達の状況（生活基盤）と結びついたところで語らなければならぬ。そして討論して行く過程で明らかにしなければならぬことは、われわれが日常、意識的な対象とせずにいる潜在的な問題を写真について語る中で意識的な問題にしていくことである。

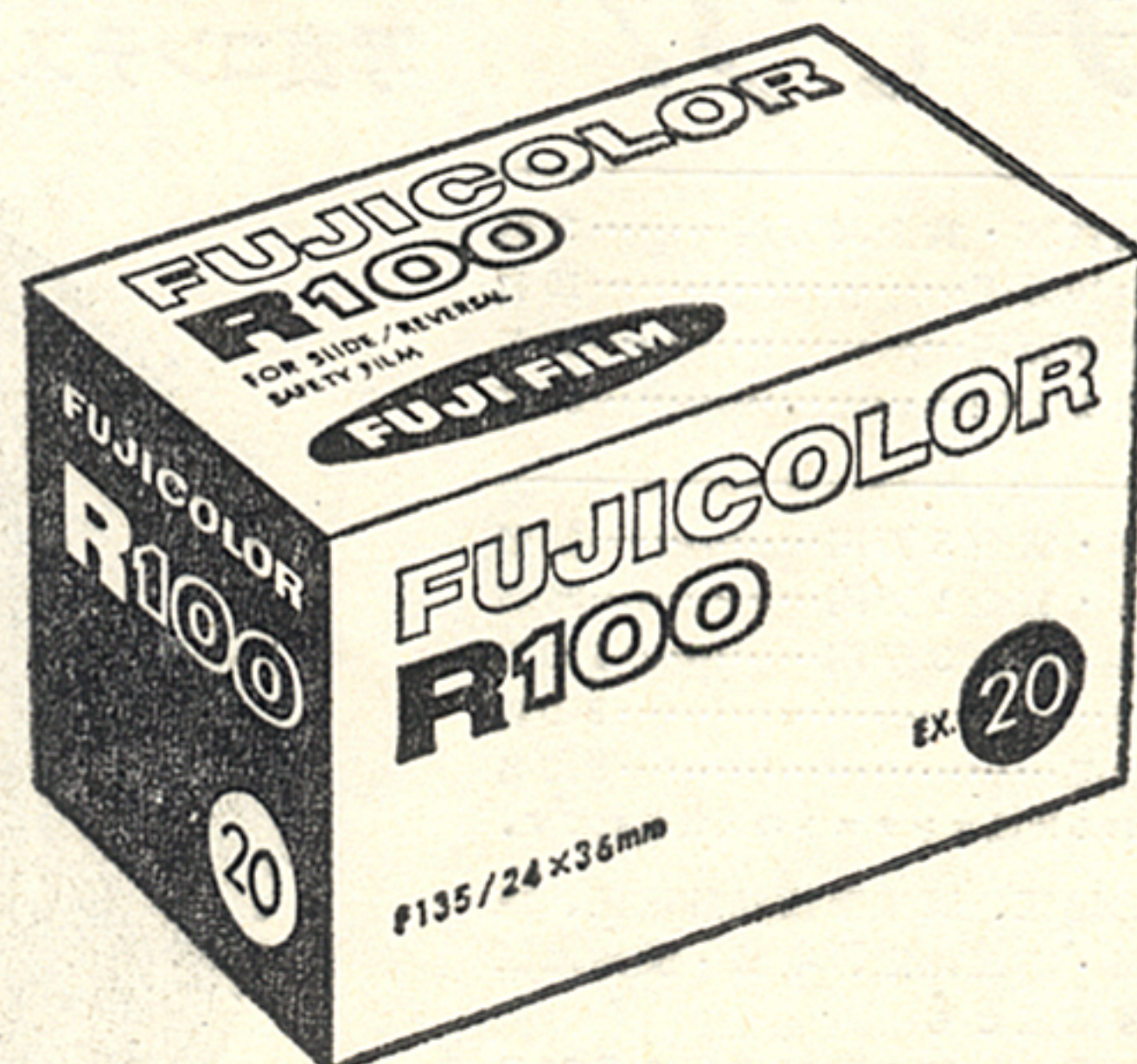
即ちわれわれは自分自身を積極的に即目的な自己から対目的な自己に変革でき得る様な討論を展開しなければならぬ。第三目には、今までの討論展開から明日への具体的な方法論を導き出さねばならない。つまり、写真の対象を

と同時にこの現実には、あるいは世界に自己を確かな存在として打ち込むことが出来るような方法論を明らかにするのである。この世界に自己を確かなものとして存在させる方法論は、今のわれわれの状況を乗り越えたところに存在する。

われわれがその方法論を手中にすることが出来るのはがまん強く待つことがなく、行為を起す時のみ、その可能性が開けるのである。

大切なもう一つの方法、合宿中にみんなが写真と言ひ引きで、全体的な把握が困難になつてしまふので、確かな方法として、フィードバック。それは、みんなが問題とした写真、見落している問題を再度提起したり、合宿の行程を縦の線とすれば、横から切断するという方法によつてわれわれの問題を明確にするという方法です。最後に時期的にいつも新入生の問題を考慮していかなければならぬので、合宿で明らかにした

富士フイルム



フジカラーなら、捉えたいカラーイメージをそっくりそのまま再現。さえた色、キメこまかな発色は、抜群の美しさで圧倒的な人気です。フジカラーは、湿気に大変強く、色があせたりして、貴重な記録を損うことはありません。

カラー時代をリードする フジカラー

カラーズライドに

カラープリントに

フジカラー

R100

N100

35mm 20枚撮 740円 他各種(現像料込)

35mm 12枚撮 290円 他各種(現像料別)

—その方法—

テキスト写真を撮る〉二つの作業をすべてカリキュラムを組み立て、多面的に活動していく

資料 写真集 東松照明・川田喜久治・クライン
テキスト 歴史は何を教えるか
その他 小説・社会科学評論・詩・絵画・映画

ぬふてしをせうとす。

(關東・羽後志)

ともに写真と自分の関係を明らかにする。写真を撮るときの二つに

●東京都新宿区三栄町25(三栄会館) 全日本学生写真連盟

定價 900円

問い合わせ先 TEL (503) 1371 担当者 高瀬

新しい女の戯れの原理を示

現代思潮社 東京・文京・春日1-6
振替/東京72442

しかしデモ（我々の行なう）はそれだけで組まれるものではない。彼等はデモに参加した人数を数える。それは正しいことであり、あやういことなのだ。二千のデモは千の機動隊を粉砕できるかもしれないが、一つの意識を破壊できないあやうさを包含しているからである。二千のデモは千の異った意識の結合である。

ばくはこのようなとき写真などのように位置づけすればよいのだろうか。写真の機能に自己意識と状況意識がある。実は一つのもののなかの……。

ばくは多くのクラスの彼のように写真を撮ることはできない。彼の写真の方法には自己認識の方法が欠けている。（それは生き方の問題と写真の方法は必ず一つのものとして捉えなければならぬ、というばくらの前提の範囲でのことだけではなく、行為一般はどのように捉える以外に確かなことは何もなくなってしまう、という性質のものだからである。）リアリズム写真は自己認識の方法を言葉で語るのが上手である。しかしそれは付け焼刃にすぎない。ばくは学費闘争を良く知ろうと思った。そしてこのあまりにも仕組みられた固定意識を破壊しようと思った。そのところから写真の方法と同一のものがあるすべての行為の面值

はそれによつて推し図られるべきものである。ぼくたちがデモを組むのは固定された力のなかに自己を落し入れるのではなく自由な意識の創造のためなのである。まさに彼の写真の中にはそれについての志向がなかつた。ぼくの腹立たしさはそれ故だったのだ。

ぼくは、ぼくたちはいつでも内側からしか状況を見ることはできない。もし外側から語ることができたとしたらそれは一つの現象が過ぎ去つた時か知つたかぶりのどちらかだつた。ぼくは写真がそうならないように、ぼくがそうならないように写真を擧げようと思う。そのためには現象の歴史的意味の把握をし、一見ぶざまにみえるその状況を憂えていく方法をなつて出さうとする過程の中に自分を置くことだと思つた。

(雄雄)

一月二十九日午後三時明治大学記念館は学費闘争の最後のヤマ（対理事会同交）を迎えようとしていた。その時二つの暴力はぶつかり合つてしまつた。一部共闘会議を中心とする場内警備と体育会の暴力、六十人が乱闘となり血を流した。

「いまの場面何枚も撮つちゃつたよ」乱闘の直後会場に入つたぼくはクラス友達からそんな言葉聞いた。彼はハーフサイズのカメラを手にして得意でいっぽうに言うのだ。ぼくはぼくのように答えた。たよりのかわからずに「ふーん」とだけ。ただ怒りだけが残つていたのを覚えてゐる。

彼はこの闘争に入つてから闘争のことについてはわりあい無感心な人間であつた。クラス討論でも自分の心情的な部分でしかものごとにとりくもうとしていながつたし、理論的にも物理的にもこの闘争を押し進めていこうという態度は少しも示していない種類の人間だとぼくは考へていた。さまざま疑問が残されてゐる。何故彼は写真を撮る必要があつたのか、これがはくにとつていちばん大きな疑問である。考えられることは、

よく生き、考える刀は、飼ひならされた暴力に打ち砕かれていつた写真を撮ることとは、一体どのような意味があるのだろうか。このように混乱した状況写真には力があるのだろうか。「デモをする」と写真を書くことは比較できる刀として捉えて良いのだろうか。文化活動は、デモのエネルギーを支えるものでなければならぬ。お題目のようくり返される闘争理念は、彼等活動家にとって一つの武器である。それは正しい。

問題と写真の方法は必ず一つのものとして捉えなければならぬ、というぼくらの前提の範囲でのことだけではな、行為一般はそのように捉へる以外に僅かのこと何もなくつてしまふ、という性質のものだからである。リアリズム写真は自己認識の方法言葉で語るのが上手である。しかしそれは付け焼刃にすぎない。ぼくは学費闘争を良く知つたと思つた。そしてこのあまりにも仕組みれた固定意識を破壊しようと思つた。そうすることば写真の方法と同一の事である。この矛盾の直直

誰かがベトナムの写真を撮るらしいのなら、すぐ政治活動をやります」といつた、がこのことはもとでは白々しい。政治であれば現実とは変わらぬという古規定は全てとも真実であるが、もう少し現在の状況に見合った内容がない。その意味において政治とある。それがわれわれにとって目

対し相対的な意味において、それら存在物の現象の全体的連鎖とわれわれに開示する。現実には一つのものである。政治、経済、科学、文化、すべて一つのもので

目的における現実のあり方であつて、具体的には泥にまみれてこの暴力に満ち満ちた現実を、この普遍的目的を具体化しながら生きるそのことがわれわれの課せられた任務である。

らなく、むしろ、かようなやり方によりに写真を撮らうと思う。そのためには現象の歴史の意味の把握をし、一見ぶざまにみえるその状況を變えていく方法をみつけ出すとする過程の中に自分を置くことをとらう。

(英雄)

キヤノンFT

FL 58mm F1.2付 現金正価 ¥66,800
FL 50mm F1.4付 現金正価 ¥54,800
FL 50mm F1.8付 現金正価 ¥45,800
ソフトケース——— ¥ 2,400
キャノンブスター——— ¥ 9,800
キヤノンカメラ株式会社

